REKISHI★KOKAIDODAN VOL.1 2004.10.9

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
運営本部〒206-0021 東京都多摩市連光寺3-37-10 宮田太郎
TEL/FAX 042-339-5055 （歴史古街道団 団長）

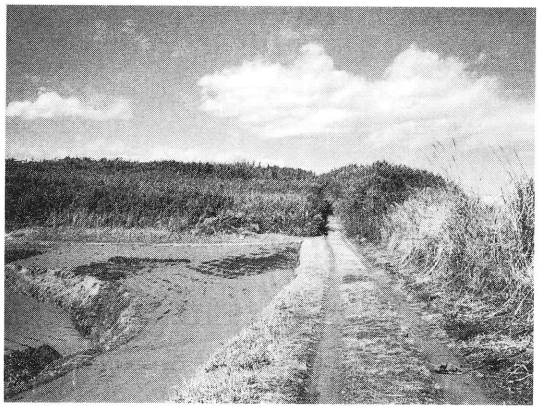
多摩丘陵から全国へ熱いメッセージ。
～いまだからこそ始めよう文化遺産のルネッサンス～

歴史古街道団★誕生 !!

歴史古道が持つ偉大なるロマンと無限のパワーを知ろう

このたび、多摩丘陵に「道」をテーマに、その研究と保全と活用のための活動団体が誕生することとなりました。それは、私たちの身の回りに今もたくさん眠っている、古道や古街道の痕跡、それに沿う遺跡や史跡、伝承などのかけがえのない歴史遺産・資源が次々に消滅していく現状を少しでも変えていきたい、もっともっと活用していく方法を模索したいと考えたからです。

古道はとても魅力的なものです。



遠い昔から連綿と続いてきた先人や先輩たちの一生懸命に生きたその証を、また豊かな知恵と工夫に満ちた力強い暮らしぶりや、たくさんの人が協力しあって完成させた事業の数々、そして人生の様々なドラマを、いま私たちに教えてくれます。

その過去からのメッセージは、実は私たち現代人の心身をも、とっても元気にしてくれる偉大な神秘の力を秘めているのです。

◀ 奥州古道と六部塚（多摩市唐木田）

《歴史古街道団の主な活動》

1、歴史資源（古道、遺跡、史跡、伝承）をまちづくりに活かすための啓蒙活動（講演、学習、研究、セミナー、フォーラム、探索ウォーキングの開催ほか）。 よって生涯学習、総合学習、健康推進事業にも寄与する。

2、多摩丘陵周辺に奇跡的に残された古道群「多摩古道」と昨年オープンしたばかりの「多摩よこやまの道」（歴史自然景観遊歩道）の保全と活用、研究、並びに全国各地の古道の実地踏査・研究活動。

3、関東各地、全国へ向けて「歴史古道でつなぐ地域交流ネットワーク」の輪を広げ、歴史古道による地域興し、地域発展のシステム構築を目指す。

顧問ごあいさつ

歴史古道の再生を期待する

「すべての道はローマに通ず」という言葉を思い出すまでもなく、道は、それがつくられた時代を反映するもので、ある時は軍事面から、ある時は交易などのための情報空間として重要な役割を果たしてきました。2003年４月、古道復活としても話題となりました「よこやまの道」7.5kmは、万葉歌から名付けられたもので、古代東海道や鎌倉古道と平走・交差する歴史とロマンを感じさせる道です。私はこの開通に際し、その整備の責任者でしたが、このとき宮田太郎さんの多大なお力をお借りしました。

今般、時機を得て「歴史古街道団」を発足されましたことを心からお喜び申し上げます。

顧問　藤田道男《新都市センター開発株式会社 常務取締役》

歴史古街道団に胸ワクワク

宮田さんは楽しい人だ。ロマンチストで行動力があり、古道の話になると、熱中少年に変身してしまう。

この宮田さんに出会ったのは、昨年の秋。多摩テレビ主催の万葉の古道・多摩のよこやまの道シンポジュームの席でした。この時から私は宮田さんファン。宮田さんと一緒に、歴史古道をエンジョイしながら、宮田さんのロマン実現のために応援してゆきたいと胸を躍らせています。

顧問　今野耕作《株式会社 京王エージェンシー 相談役》

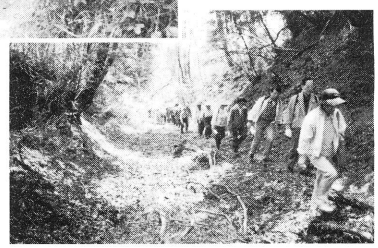
“多摩古道”と“多摩よこやまの道”

■ 多摩古道とは……

写真上：鎌倉古道
（多摩市貝取と
小野路町の境）

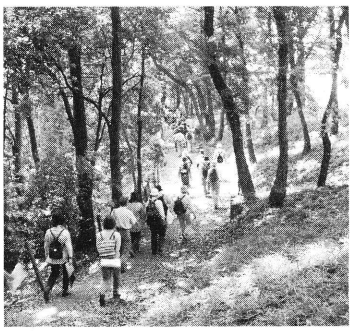
写真中：相原七国峠古道
（町田市）

写真右下・左下：
多摩よこやま道で



東京都と神奈川県にまたがって広がる多摩丘陵とその周辺にかつて存在した歴史の道のことであり、西の「熊野古道」に対して東には「多摩古道」があることを広く知って頂くために研究上命名されました。「新選組の道」や「絹の道」「鮎街道」「自由民権の道」「戦車道路」などは幕末から明治・大正・昭和の道であり、「甲州街道（甲州道中）」「品川道」「津久井往還」「矢倉沢往還」「大山道（参詣道）」「富士道（参詣道）」「小田原道」「日光道」「川越道」「東西両国間・巡礼街道（小山田巡礼古道）」「八王子道」「原町田道」「布田道」「相州隠し道」「家康御尊櫃御成道」などは江戸時代の道、「旧鎌倉街道」「鎌倉古道」「鎌倉街道早ノ道」「御殿峠古道」「相原七国峠古道」「稲毛道」「小野路道」「陣街道」「信玄道」「獅子道」「当麻山道（参詣道）」などは平安時代末期から中世武士の時代の道、「古代東海道」「古代甲州道」「奥州古道」「奥州廃道」「国府街道」「古代郡役所道」「古代武蔵上総国道」などは古代飛鳥奈良平安時代の道です。これらとても重要な歴史古道跡が各所に奇跡的に残されています。

■ 多摩よこやまの道とは……



多摩ニュータウン南側境界線の利用案として30年ほど前に原案が出来、近年になって遊歩道として実現したものです。2003年の４月５日にこの見晴らしの良い尾根筋を歩く遊歩道として7.5ｋｍが開通しました。できるだけ手を入れず自然のままに昔ながらの多摩丘陵の景観を残すよう配慮し、防人の通った峠や鎌倉街道などの「多摩古道」とも随所で交差する利点を活かして案内版を設置。歴史とふれあいながらウォーキングができることからすでに多くの方が訪れて楽しく歩いています。

■ これからの活用……

北は武蔵野や狭山丘陵、遠方に筑波山や赤城山、西は秩父山系や丹沢山系の山々が見え、東は新宿や都心部、南は多摩丘陵の深いみどりの樹海が見える展望の良さは、関東の歴史や自然史を学ぶには最高のロケーションであります。この尾根に複数のネイチャー系・歴史系・健康づくり系ガイドリーダーと案内板を配置し、より深く知りたい方に情報や楽しみ方を提供できる環境にすることで維持管理に貢献できるものと思われます。また、よこやまの道は、この尾根の延長線にあたる他の遊歩道とつなげると24ｋｍもの長大なウォーキングロードになり、東京の府中や稲城から神奈川県の津久井や相模湖まで歩いて行けることになります。古道と交差する接点では休憩ポイントを配置し、湧水近くに炭焼き施設（湧水をろ過して飲料水化）を設置すれば、古代以来の物見台としての安定した環境と無線中継しやすい高台の利点とあわせ、「災害時の救護拠点としての利用と緊急物資輸送路としての古道活用」も考えられます〈住宅が密集する相模野と武蔵野間の緊急時往来に大きく貢献〉。

“道の保全と活用”

■ 消滅の危機にある古道たち

多摩ニュータウンが計画発表された昭和39年頃まで、「平成狸合戦 ぽんぽこ」の映画にも登場していたような緑豊かな里山の景観が多摩丘陵にはまだたくさん残っていました。

田畑の恵みを満載した荷車が昔ながらの里道や往還道を行き来していたころは、その道の付近や草藪の中に古道は昔のままの姿を見せていたのでした。しかし都市部に近い多摩丘陵に宅地化の波が押し寄せてその姿を大きく変貌させ、かつては源頼朝や義経や足利尊氏が通った「鎌倉街道」も、また横浜に絹を運んだ日本のシルクロード「絹の道」も、大山に向かって巡礼姿の人が賑やかに往来した「大山道」も途切れ途切れに寸断されて、よく探さないとその位置さえわからなくなってしまいました。

◀ 御殿峠古道
（町田市と八王子市の境）

もちろんこれは多摩だけのことではありません。日本の各地で同じように、先人たちの様々な人生のドラマや歴史の出来事を刻んだ古道は次々に消えていってしまっています。

■ なぜ残せないの？

新しい街の図面をひく都市計画の専門家は、もちろん何パーセントの緑地が必要かを知っていますがその土地ならではの「歴史資源の存在と面白さ」や「歴史的地勢の利」について情報を収集し活用しているとは限りません。もし真剣にそれをしていたら新しい緑地や公園をわざわざ平らに造成してしまった場所には造らないでしょう。遺跡や史跡や歴史環境をそのまま公園や緑地として活かせば、遺跡調査費も削減でき、かつ潤いと文化価値の高い街にすることができるでしょう。住宅や土地販売のときも、「ここには数千年前から人々が豊かに暮らしていましたので、安心してお暮らし下さい」といえるはずです。では、なぜ残せないのでしょうか。

1. 文化財は厄介者 ―――― と思っている人が多い。

開発に伴う遺跡調査費用の開発者負担という法律が、地権者である地元の人と開発者を苦しめ、罪の無い文化財をもっと苦しめている。自分の故郷の誇りを自分で切り捨てなければやってゆけない現状。法律を恨まないで文化遺産・文化財を恨むというおかしな現状。本当は「反対に文化財は開発の際にもプラス材料になりうるもの！」という意識改革が必要。遺跡調査自体の構造改革も緊急に必要。大幅な調査経費削減のための「ボランティア発掘調査制度推進（市民発掘など）」と「文化財の保全度・活用度に応じた開発側への特典付与、表彰と経費援助、税制優遇」など、従来の概念とは正反対のやり方があると私たちは考えています。

2.「道」は遺跡（文化財）じゃない？ ―――― と誤解されている。

多くの遺跡や文化財と違い、道は「線」に沿うことから境界線となりやすく、調査対象地区外になりがち。また、古代や中世に関わる古道や古街道は地表でも確認できますが、土の中に埋まっている「埋蔵文化財」でもあるのです。文化庁長官から十数年以上前に全国の自治体の文化財課に対して「歴史の道を文化財として保全の対象に加えなさい」との通達が出たことがありました。各地の自治体の中にはそれを受け、国庫補助金を得て「歴史の道文化財調査」を実施し観光や学習に活かした所も多いのです。発掘は遺跡の破壊にもつながりますが、「道」は線なので一部分の試掘調査で道の性格がつかみやすく、古道・古街道を先ず遺跡としてとらえ学術発掘（市民発掘等）を大いに取り入れるべきです。

■ 古道をもっとまちづくりに活かそう！

なぜ古道を少しでも残したほうがいいのか、それは私たち現代人にとって、いまとても必要なメッセージをたくさん含んでいるからです。単に交通の“道具”だけでは説明できない不思議なパワーを持っています。幾百年の星霜を乗り越えて人々の暮らしとともにあった道ならではの素晴らしい力を、まちづくりにもっと活用するべきでしょう。

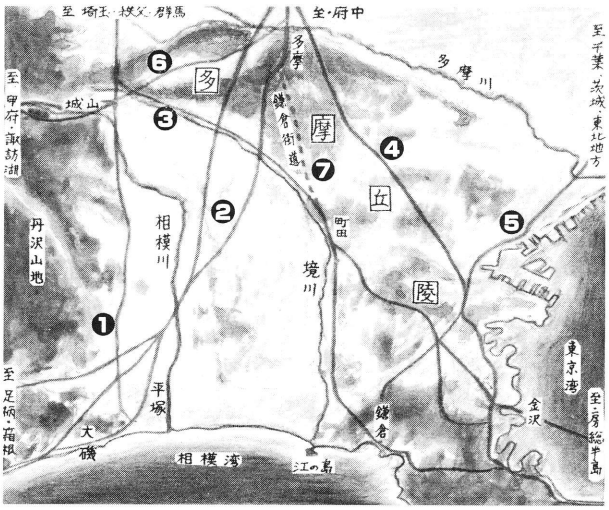
明治時代の人たちが私たち現代人に残してくれた古い地形図（正に宝島の地図！）を活用すると古道が見えてきます。最近は図書館にも置いてあり、またコピーもできます。この地図を持って歩けば、昔を想像する力「古想力＝古相想像力」なるものがはたらいて、人々が調和して暮らしていた昔の風景が浮かび上がってきます。昔の風景を復元することは、実はその土地の地勢の利や風水的な景観科学にかなった開発計画・都市設計にも重要なことなのです。

例えば昔からの「辻」は人や気が集まるべき不思議な力を持っており、そこから伸びるゆったりとした曲線の小道には不思議と人々や情報が集まり、挨拶を交わす声が聞こえ、賑やかなふれあいの場所が生まれます。そこへ続く鎮守の森やお寺、水の手である小川や林の木陰があればさらにゆったりとした安らぎの場となります。真っ直ぐで四角なまちづくりは人の和を造りません。川も道も適度に曲がっていたほうが居心地がよく、そういう意味でも古道は人間の生き生きとした暮らしの利にかなっているのです。

■ 多摩丘陵の古街道の流れ

多摩丘陵には大きく次のような道の流れがあります。

❶「関東山ノ辺の道」古代以来の「海の民、山の民の交流道」
❷「古代東海道」や「奥州古道」足柄や箱根を通って西日本からの文化が東日本に来たルート
❸「鎌倉街道山ノ道」秩父や青梅から鎌倉に向かうルート
❹「古代武蔵上総国道」府中から金沢八景の六浦港を通って房総半島や鹿島・香取神社方面にいくルート
❺「鎌倉街道下ノ道」東京湾沿岸に沿って鎌倉に向かうルート
❻「古代甲州道」府中から甲府や八ヶ岳・諏訪湖に向かうルート
❼「鎌倉街道上ノ道」府中付近から鎌倉に向かう幹線的古道



『多摩丘陵の歴史古道の流れ』作図・宮田太郎

歴史古街道団の活動がスタートしました！

〔プレウォーク第１回、第２回報告〕

2004年の5月11日に始まった古街道団設立準備会は、設立前のプレウォークとして5月30日（日）と9月26日（日）に「多摩よこやまの道＆多摩古道ウォーク」を団長・宮田太郎の案内で実施しました。

【 第1回 多摩よこやまの道＆多摩古道ウォーク 】

テーマ“古代東海道と鎌倉街道早ノ道を探る”

遂に第１回目のウォーキングを5月30日（日）に実施。この日は永山駅に午前9時半集合。今年一番の猛暑となったにもかかわらず、71名の参加者があり朝の永山駅前の交番前広場は賑やか。この日は防人が九州に赴いたときの大国道「古代東海道」と、頼朝腰掛松の伝承を残す鎌倉幕府の高速道路「鎌倉街道早ノ道」がテーマ。駅から諏訪団地の尾根へ上がる頃には気温も上昇。諏訪北公園あたりから府中方面と武蔵野を遠望。歩道橋の下あたりが防人が通ったと考えられるとの解説にみんなもびっくり。平安時代の朝廷の牧場・小野牧（おののまき）で牧童たちが夕暮れ時に小川で馬の毛並みを整えてやっているのどかな風景が浮かんでくる「馬引沢」では、黄金の薬師様伝説のある薬師堂を確認。古代東海道と鎌倉街道早ノ道が重なって発掘で確認された連光寺「打越山遺跡」からの推定ルートをたどりながら、聖ヶ丘二丁目の高台に上がり南側に連なる「多摩よこやまの道」の尾根を眺め、かつては狼煙（のろし）や飛ぶ火（烽火）台、物見台が並んでいた風景に思いを馳せた。

高台の馬引沢南公園で昼食。午後はあまりの暑さに「よこやまの道」の見晴らし展望台「防人見返りの峠」の先の「並列する謎の大規模古道跡」前で仮解散。しかしほとんどの方が追加コースの一本杉公園まで歩き切るという充実の一日であった。

【 第2回 多摩よこやまの道＆多摩古道ウォーク 】

テーマ“唐木田の奥州古道と多摩よこやまの道”

第２回は9月26日（日）に唐木田駅９時半集合。東へ一本杉までたどるコースで開催。当日は小雨まじりのあいにくの天気だったが、参加者48名は朝からみんな元気だ。駅前のレクチャー後、大妻女子大前に向かい奈良・平安時代に都人が歩いた奥州古道の痕跡や石塔の話、日野の平山城址から続く鎌倉道、東京国際カントリー倶楽部の中の奥州古道など、なんともなつかしい場所を歩く。「語り部の丘」からは巡礼伝説の里「小山田山中地区」と鎌倉幕府御家人・小山田氏の里を眺め、時空の壁を越えたような不思議な眺めにしばし我を忘れる。古道の踏み跡の断面が見える地点では当時の道跡は地下にあることを知って参加者からはたくさんの驚きの声。小山田小太郎隠れ穴伝説、発掘で出てきた刀傷のある頭骸骨の話と古戦場伝説などを聞きながら、南野の石仏群を経て、一本杉公園で昼食。団員受付もここで行なわれた。午後は鎌倉古道入り口や「大軍勢が通った長い谷」へ向かい、京王バス車庫前バス停に到着後解散となった。

古道探索ウォーキングとは、長距離を歩いたり、急いでわき目も振らずに歩くのではなく、昔の道を探しながらじっくりとたどり、当時の風景や情景を思い起こしてゆくことに目的があります。

途中の地面や道の壁、畑の中を覗けば土器や遺跡を発見することはごく日常的なことなのです。古道が通っていたところは原始・古代から先人たちが歩き、また暮らしていた可能性が高く、よく探せばその痕跡や片鱗が見つかる場合が極めて多いのです。自分の中の人類史的な記憶を思い起こすこと、そしてより深い自分の発見がテーマです。

歴史古道でまちおこしフォーラム2004

2004年10月9日（土）
多摩市永山ベルブホールで開催！

道路文化研究所の武部健一先生の
記念講演や発団式、多摩古道の紹介など。
～ 詳細は次号でお知らせします～

歴史古街道団これからの予定

1、歴史古道と関連する遺跡の保全と活用【運営本部】　2、「道」を通しての地域交流【地域交流部】　3、実地踏査・研究活動【調査研究部】の三つを活動の柱として全体会と分科会で行動していきます。団員の皆様はこれからの調査活動に、各地との交流にと、どんどんお気軽にご参加下さい。　主な日程は次の通りです。細かな会合は会場予約の関係もあり、随時お知らせします。また、関連団体・協力団体の予定もあわせてご覧下さい。

■ 2004年11月1日（月）古街道団役員会

【会 場】多摩市永山公民館「ベルブ永山」4F学習室
【時 間】午前9時半から12時まで

■ 2004年11月10日（水）古街道団初顔合わせと交流

入団された皆さんが初めて交流いたします。これからどのように参加されていくとよいのか、その活動の方法や参加の方法についてなどご相談にもお答えします。

【会 場】多摩市永山公民館「ベルブ永山」4F視聴覚室
（最寄駅は小田急多摩線、京王相模原線の永山駅。改札を出て左のマクドナルド脇の外階段を上がって奥のガラス張りの建物が公民館です。駅より徒歩3分。駐車場もありますが、台数が相多くはないので、待つ場合があります。他に一般駐車場（立体）もあります）
【時 間】午前9時半から12時まで
【その他】参加費300円（お茶代）参加は団員のみ
申し込み不要　終了後はご希望者の方同志で近くの飲食店街で昼食をとりながら楽しく語り合いましょう

■ 2004年11月23日（火・祝）日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ=鎌倉街道を探検しよう!
PART1「小野路から野津田の丘へ」

鎌倉街道は本当に面白い古道です。いったい誰がいつ何のために造り、当時はどんな工夫が道に施されていたのか実は何もわかっていないのです。その割には痕跡が確認されやすく、一部を発掘してみてわかったことは古代の国道など大きな道を踏襲（その上をなぞらえるように建造）していたケースも多く見られることでした。これから始まる『鎌倉街道シリーズ』では、多摩丘陵を通るルートとその構造を徹底検証し、かつて鎌倉時代には義経や坂東武士たちが駆け抜けた謎の街道の様々なロマンを現地に楽しく探っていきます。

〔集 合〕午前9時半 小田急・京王「多摩センター駅」
小田急線改札口前に集合　解散は小野路バス停
（多摩センター、永山、聖蹟桜ヶ丘、鶴川行きバス）
午後3時半
〔コース〕多摩センター～バスで小野路～小野神社～矢倉沢古往還、家康の御成道、大山道、鎌倉街道～野津田公園内の鎌倉道と遺跡・史跡（武士の屋敷推定地、馬込（まごめ）推定地、水場の深い谷、くぐつ沢、鎌倉橋、鎌倉街道の発掘現場跡）～鎌倉古道跡～砦跡～昼食（公園内）～上ノ原広場～華厳院の坂と板碑（いたび）群～中世の建物跡出現地～綾部ヶ原古戦場～岩子山千手院～バスで多摩センター他
〔その他〕※下欄の参加要項参照

■ 2004年11月30日（火）古街道団学習会

テーマ「多摩古道は面白い！ PART1―古道群のようす」

【会 場】多摩市永山公民館「ベルブ永山」4F視聴覚室
（最寄駅は前記に同じ）
【講 師】宮田太郎団長
【時 間】午後1時から5時まで
【その他】参加費500円（資料代とお茶代）一般 800円
申し込み不要

■ 2004年12月17日（金）　日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ=鎌倉街道を探検しよう!
PART2「七国山から本町田へ」

前回に引き続き、鎌倉街道の上ノ道本路の痕跡を追跡します。七国が見渡せたという高台は三つの山を一つとしてみると360度展望の要害の地となります。大規模で最も美しい鎌倉街道跡が残るこの山から古道は町田方面にどのように続いているのかを実地に検証していきます。高台を通る鎌倉街道の楽しさと心地良さを体感してください。

〔集 合〕午前9時半 小田急線「鶴川駅」改札口前に集合
解散は町田バスセンター（小田急・JR町田駅）
〔コース〕鶴川駅～バスで野津田車庫～七国山の古道と鎌倉井戸～ダリア園（昼食）～今井谷戸～山崎境の鎌倉街道～一色伊賀守屋敷跡と鎌倉道～井出の沢古戦場～菅原神社～町田バスセンター（町田駅）
〔その他〕※下欄の参加要項参照

日帰り 古道探索ウォーキング の 共通参加要項

- □ 参加資料代：団員　700円（ご夫婦の場合2名分1,000円）
  一般1,000円（ご夫婦の場合2名分1,500円）
  中学生以下無料
- □ 申込み不要（当日集合場所にて受付）
- □ 小雨決行，昼食・雨具は必ずご持参下さい

■ 2005年1月8日（土）　日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ＝鎌倉街道を探検しよう！ PART3「国分寺恋ヶ窪編」

武蔵国分寺があった場所は今でも礎石が残り、ハケの湧水から霧が立ち込める日はなんとも幽玄な様相に変わります。尼寺と僧寺の間を通る鎌倉街道や古代道路の痕跡を現地に探ります、恋路太夫ゆかりの傾城の松や真姿の池は昔の物語を思い起こさせてくれるでしょう。

〔 集 合 〕午前9時半JR中央線「西国分寺駅」改札口前に集合
解散は西武国分寺「恋ヶ窪駅」午後3時頃
〔コース〕西国分寺駅～東山道武蔵路跡～国分寺（僧寺と尼寺）～黒鐘公園の鎌倉街道跡～昼食（西国分寺駅前で自由に）～傾城の松～真姿の池～鎌倉街道～熊野神社～恋ヶ窪駅
〔その他〕※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年1月29日（土）　日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ＝奥州古道の多摩川渡し場と小野神社周辺探検！

かつて多摩川を府中側から南に渡る六つの渡し場（四谷、万願寺、一ノ宮、関戸、是政、押立）のうち足柄や箱根峠と直結していた奥州古道の渡しは多摩市の一ノ宮や関戸にありました。小野神社は平安時代より続いている古社であり、今の聖蹟桜ヶ丘駅付近は飛鳥・奈良時代以来長期にわたり東日本を代表する重要な歴史古道が集中した場所です。ここから南に扇状に広がっていた多摩古道の歴史を探検します。

〔 集 合 〕午前9時半 京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」西口改札口前（タクシー乗り場側）集合
解散は聖蹟桜ヶ丘駅午後3時頃
〔コース〕京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」～関戸渡し場道～多摩川～鎌倉街道～大栗橋の石塔と大板碑～九頭竜神社～昼食（聖蹟桜ヶ丘駅周辺で自由に）～一ノ宮の渡し場と神奈川県水量標識～畠山重忠の鳥居馬場道～小野神社～落川遺跡跡～奥州古道～聖蹟桜ヶ丘駅
〔その他〕※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年2月11日（金・祝）　日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ＝奥州古道と稲荷塚古墳の謎を探る

奥州古道は遠く奈良や京都の都から東北地方に向かった古代からの幹線道路。その途中の「和田の塚っ原（多摩市）」といわれたほどの大古墳群に今も現存する稲荷塚古墳は畿内地方の天皇陵並みの八角形古墳と分かり話題を呼びました。その近くを通る奥州古道や古代甲州道、鎌倉裏街道の原型はすでに古墳時代末期に出来上がっていたと考えられます。謎の多摩川沿岸の大集落跡「落川遺跡」と古代のランドマーク「愛宕山」ふもとの伸びやかな台地の歴史ロマンを探ります。

1月から3月までの打ち合わせ会合や学習会の予定は会場予約の都合があり、今年の12月中旬頃に別途ご案内いたします。

〔 集 合 〕午前9時半 京王・小田急線「多摩センター駅」小田急改札口前集合
解散は京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」午後3時頃
〔コース〕多摩センター駅～サンリオピューロランド（奥州古道）～吉祥院～愛宕山～愛宕の切通し～昼食（ファミリーレストラン他自由に）～稲荷塚古墳～鎌倉裏街道と奥州古道～古代甲州道～東寺方～お化け坂～聖蹟桜ヶ丘駅
〔その他〕※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年2月25日（金）　日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ＝古代都筑小王国のロマンを探る〔ご案内・中村俊一氏〕

〔 集 合 〕午前9時半 小田急線「柿生駅」東口改札口前集合
解散は田園都市線「あざみ野駅」午後4時頃
〔コース〕柿生駅～路線バスで水道局青葉営業所前～稲荷前古墳群～市ヶ尾横穴古墳群～自由昼食（市ヶ尾駅周辺飲食店）～朝光寺原遺跡～都筑郡役所跡～江田駅～田園都市線あざみ野駅～センター南駅～横浜市立歴史博物館見学～あざみ野駅
〔その他〕※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年3月10日（木）　日帰り 古道探索ウォーキング

テーマ＝町田・木曽宿の変遷と境川を渡る古道を探る〔ご案内＝中丸三次氏〕

東京都町田市の木曽は続日本紀にも記された古代の東海道の道すじにあたり、家康の遺骨を運んだ頃には少なくとも宿場が形成され一里塚もありました。最近確認した戦国時代の石川家古文書から南北に形成されていた宿の姿を検証し、境川の古代からの渡河点や江戸時代の家康の柩（ひつぎ）搬送の道などを探っていきます。

〔 集 合 〕午前9時半 JR古淵駅改札口前集合
解散は町田街道バス停（町田駅行き）午後3時頃
〔コース〕JR古淵駅～龍像寺坂と境川渡河点～木曽下宿～六道の辻～福昌寺～昼食（ファミリーレストラン他）～木曽上宿～鎌田坂～山崎～町田街道バス停
〔その他〕※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年3月21日（月・祝）　講演会と交流会

内容と会場は予約の関係上、現在調整中です。追って、ご連絡します。

2月25日と3月10日以外のご案内は宮田太郎団長がいたします。

協力団体のページ

鎌倉古道さとびとの会

“すべての文化と遺跡は道によって誕生した”
“道を解けばその地の真実の歴史が見えてくる”

月1回の「歴史ウォーキング」は宮田太郎講師のロマン溢れる明快な解説を聞きながら和気藹々、楽しく歩いています。かつて関戸城があったといわれる桜ヶ丘住宅地から始まり、多摩市内·町田·八王子·相模原へと古街道を辿って来ました。今後は府中·稲城方面を予定。皆さんのご参加をお待ちしています。

▲ 津久井郡城山町にて

☆詳細は「たま広報」に毎回掲載予定。

【 活 動 予 定 】

2004年
10月17日(日) 関東山辺の道シリーズ·山田の広園寺と枡形山の謎
11月16日(火) 鎌倉時代の連光寺の謎と紅葉の聖蹟記念館(多摩)
12月 7 日(火) 関戸合戦と鎌倉幕府の関所跡を探る(多摩)
2005年
1 月25日(火) 妙見尊と陰陽師の風水ロマン地帯をゆく(稲城)
2 月22日(火) 武蔵国府と大国魂神社の謎を探検する(府中)
3 月29日(火) 義経·弁慶伝説といざ鎌倉!陣街道を歩く(府中)

〔連絡先〕 鎌倉古道さとびとの会
代表: 大杉公志　連絡先: 042-376-1122(遠藤)

サークル 歩知歩知(ぼちぼち)

そこに住んでいながら、意外に知らない我が町「稲城」のこと。先人達から私たちにどの様に受けつがれて現在があるのかを、もっと知りたいという想いから発足し学んでいます。活動は月1回(第1土曜日)。名前の通り歩知歩知(ぼちぼち)ゆっくり稲城の歴史と暮らしについて学習し、実際に現地を歩いています。少しずつ近隣との関わりの歴史も学んでゆきたいと思っています。興味があり楽しく歩ける方ならどなたでもご参加ください。

〔連絡先〕サークル歩知歩知(ぼちぼち)　代表:小林幸子
TEL 042-377-2957

歴史街道探検隊

結成から早7年。相模原の地で考古学研究者の間のアイデアから始まった探検隊は、八ヶ岳での武田信玄の棒道ツアーからスタート。歴史古道を遺跡として捉え、周辺の森や藪の中に全員で果敢に突入しては「撤退!」の合図で引き上げる様は初めてご参加の方々にはとても印象的らしい。毎回何が飛び出すかわからないほど歴史的な発見の連続。飽きることなんてありません。これまで会員募集は一切せず、隊員の紹介者や口コミで集まられた中で特に熱心な方だけで組織。すでに100人近い会員がいますが、古街道団発足を機に、今回は若干の隊員も募集します。古道に対し熱い想いのある方はぜひどうぞ。

▲ 旧御射山遺跡(長野·八島湿原)

【 活 動 予 定 】

2004年
10月16日(土) 鎌倉城大調査「朝比奈切通しの城郭遺構」(鎌倉)
11月 5 日(金) 鎌倉城大調査「大仏坂の城郭遺構」(鎌倉)
11月14日(日) 鎌倉城大調査「釈迦堂切通しの城郭遺構」(鎌倉)
12月 5 日(日) 境川に沿う鎌倉道·現地探索会(神奈川県大和)
&2004年忘年会(町田駅周辺)
2005年
1 月12日(水) 狭山丘陵大調査①「八国山将軍塚編」(所沢)
2 月 6 日(日) 狭山丘陵大調査②「湖に沈んだ勝楽寺村と高麗王の鐘」と栗原仲道先生講演会(予定)
*若光研究会と合同(所沢)
3 月 6 日(日) 飯能の高麗若光の杖と上総郷の謎を探る(飯能)
*若光研究会と合同
3 月24日(木) 鎌倉街道早ノ道·北部の散策(鶴川~永山。中村講師)

〔連絡先〕 歴史街道探検隊　代表: 宮田太郎
TEL/FAX 042-339-5055

渡来文化交流団 高麗若光研究会

日本と韓半島の長い交流の歴史やユーラシア大陸各地、東南アジア各地とのつながりをもっと楽しく探求していこうという目的で結成されました。研究会の名は関東を古代に開拓した謎のヒーローの名前をシンボリックに使うことで民俗学や考古学、歴史地理学など広い視点で研究することを表しました。また実際に各国の人々と音楽や芸術の文化交流を実践することを通して、日韓の友好にも貢献していきます。

【 活 動 予 定 】

2004年
10月24日(日) 高麗神社の祭典と韓国民団農楽演納·見学ツアー(埼玉日高)
11月 3 日(水·祝) あきる野の鈴木さんにアカル姫伝説を聞く集い(五日市)
11月28日(日) 富士吉田の徐福伝説を羽田神官に聞く集い(富士吉田)
12月18日(土) クリスマスコンサート　(千葉県八日市場)
歴史語り音楽団「渡来人(ときじん)」
12月23日(木·祝) 実地踏査『寒川神社裏の応神天皇古墳の謎』(神奈川県茅ヶ崎市)
2005年
1 月 6 日(木) 初詣「大磯高来神社(元·高麗寺)」　(大磯)
2 月 6 日(日) 狭山丘陵大調査②「湖に沈んだ勝楽寺村と高麗王の鐘」と栗原仲道先生講演会(予定)(所沢)*探検隊と合同
3 月 6 日(日) 飯能の高麗若光の杖と上総郷の謎　(飯能)
*探検隊と合同

〔連絡先〕 渡来文化交流団　高麗若光研究会
佐久間　かおり　TEL/FAX 042-339-5055

古街道団設立の想い

当団はこれまで歴史的な古道、古街道や関連する遺跡・史跡を研究してきた仲間や研究会が声を掛け合って2004年の10月9日に結成された団体です。

その構成員の研究分野は歴史学・歴史地理学・考古学・郷土史・世界史・都市設計学・建築学・環境学・農学ほか広範囲に及び、これまでの物質的なまちづくりから、心豊かに暮らすための“時間軸的まちづくり”を目指します。

なぜ人は昔懐かしいものを見たり感じたりすると、目を細めて豊かな表情や心持ちになれるのかについて真剣に考えています。

それは、今現在が決して突然生まれたのではないということ、つまり悠久の時の積み重ねの中でじっくり醸成されてきたものの上にあることを認識するからではないでしょうか。

はるか大昔からの先人・先輩たちの豊かな心と、たおやかな暮らしの時代の記憶を、遺跡や古道から学び、感じとることが大切と考えます。「じっくりと感性で歩くウォーキングやツーリズム」などを通して、各地を線＝道でむすび、眠りかけている史跡や遺跡に再び息を吹きかけ、協力し合って成される新しいスタイルの「まちおこし」へと発展させていきたいと思います。

また、私たち全ての人の誇りであるべき「文化財」が、各方面から嫌われ、厄介者扱いされている現状を根本から覆す画期的な名案を提示し、啓蒙活動を実施していきます。

これらは、まさに「文化財ルネッサンス」であり、“歴史と誇りを忘れた日本人”と世界中から批判されている現状を打破する模索の第一歩ではないかとも考えます。

「道」は単なる交通の道具ではなく、私たちを元気にしてくれる不思議な力をも持っていることを、もっと多くの方に知って頂きたいと考えます。

歴史古街道団・団長
宮　田　太　郎
（古街道研究家・歴史ルポライター）

古街道団ネットワーク　地域協力団体・企業・団員　募集開始!!

関東に、歴史古道でまちおこしを企画し推進する民間団体「歴史古街道団」が初めて誕生しました。まだまだ小さな一歩ですが、一人一人のハートは熱く燃えています。

各地で次々に失われてゆく遺跡や史跡、郷土の誇りやその地方らしさを、うまく活用したいと思い立ったら「道」でつなぐのが一番いい方法と考えます。そうすることで、遺跡や史跡の意味が見えてくることや、訪れる人たちが健康的に散策できるからです。また企業の新人・幹部研修に古道探索は新しい発想の力を生み、新しく建てられたマンションの入居者には入居後の生きがいと楽しみをつくります。会社・病院・工場など、従業員の方々の福利厚生や健康づくりにも最適です。商店街の活性や、バス路線の活性、学校の総合学習、地域の生涯学習など無限のお役に立つことでしょう。

歴史古道はあなたの地域や組織を活性化します。その研究と活性化プランニングのエキスパートがお手伝いをさせて頂きます。また、協力し合うことで様々な活性化のための取り組みをするネットワークを構築します。これからもお力添えをよろしくお願い致します。

2004年10月9日

歴史古街道団
団　　長　宮　田　太　郎
副 団 長　河　村　重　雄
運営本部長　菊　田　正　俊
事務局長　三　好　一　雄
他・役員、理事一同

《入団ご案内》

団員には次の種類があります。

1、個人団員（個人）

2、賛助団員（団体、法人、個人）

上記の個人の年会費は1年間（各年4月から翌年3月まで）3,000円ですが、初年度は2004年10月9日～2005年3月31日までの期間として1,500円です。

団員には団報が年3回（号）送られます。また、賛助団員は10口以上で入団登録となり、優先的に提携事業のお手伝いをさせて頂きます。

また2005年の4月から、『研究会誌（誌名未定）』も別に発行されることに伴い、新たに研究団員（年会費プラス2,000円）と会誌購読団員（購読のみ・2,500円）も出来る予定です。

〔お申し込み方法〕

2004年10月15日までは現金を添えてお手続きください。それ以降はお申し込み手続きを先に行い、その後に指定の郵便口座に年会費をお支払い下さい。またご夫婦・ご家族で入団されますと家族会員として2人で1口分でOKです。

例：家族会員は2人で3,000円（初年度は2人で1,500円）
でご家庭に1通の団報が届けられます

〔お申し込み先〕

歴史古街道団
運営本部　〒206-0021　東京都多摩市連光寺3-37-10
TEL/FAX 042-339-5055
団長 宮 田 太 郎
http://homepage3.nifty.com/kokaido/